

平成24年度 第3回 岐阜県重症心身障がい児者支援連携会議

平成25年1月29日(火)

13:30~15:00

県庁3南1会議室

議事次第

- 1 希望が丘学園再整備及び県総合医療センター新棟整備に係る基本設計の概要について
- 2 重症心身障がい児者支援策について
- 3 療育人材の育成確保に向けた取組みについて

配付資料

- 資料1 新希望が丘学園及び県総合医療センター新棟 基本設計の概要
- 資料2 重症心身障がい児者支援策について
- 資料3 療育人材の育成確保策の進め方

新希望が丘学園及び県総合医療センター新棟 基本設計の概要

1 新希望が丘学園・基本設計の概要

(1) 再整備の目的

- ・手足の機能等に障がいのある肢体不自由児の治療や訓練を行う施設である希望が丘学園（病院、医療型障害児入所施設、医療型児童発達支援センター）は、施設設備の老朽化が進む一方、医療的ケアの必要度の高い重症心身障がい児への対応や、発達障がい児の診療・相談の増加への対応が課題となっている。
- ・しかし、昭和49年に整備された現在の建物では、こうした療育機能の一層の充実を求める声に答えていくことが困難な状況にある。
- ・そのため、新たな岐阜県地域医療再生計画に掲げる「医療・福祉の連携による小児医療・療育体制」の構築に向け、現在の施設を再整備し、平成27年度中の供用開始をめざす。

※現在、同じ建物内に開設されている岐阜希望が丘特別支援学校についても希望が丘学園と一体的に再整備を進める。（所管：教育委員会）

(2) 再整備スケジュール

平成24年度	基本・実施設計（～平成25年4月末まで）
平成25年度	造成工事 建設工事着手
平成27年度	新希望が丘学園、新岐阜希望が丘特別支援学校供用開始（9月予定）
平成28年度	第二期工事（特別支援学校屋内運動場、グラウンド、駐車場等）

【参考：現在の建物の外観（南側が特別支援学校玄関、北側が病院等玄関）】

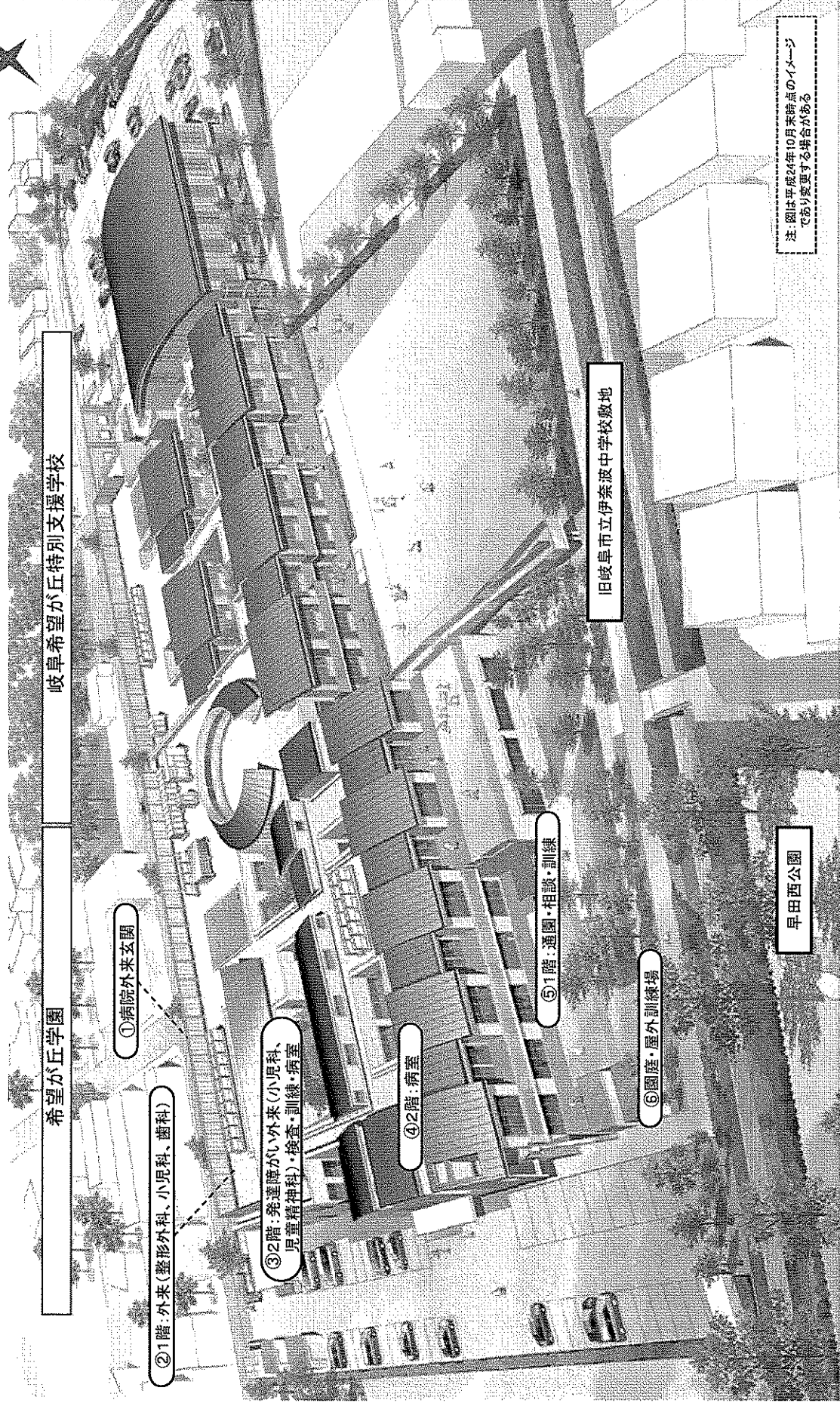


(3) 再整備計画の概要

区分		現 行 施 設	新 施 設
敷地面積		・約 12,800 m ² (特別支援学校含む)	・約 27,000 m ² (特別支援学校含む)
建 物		・鉄筋コンクリート、2階建て	・鉄筋コンクリート、2階建て
延床面積		・約 4,490 m ² (特別支援学校を含めた建物全体では約 6,800 m ²)	・約 7,300 m ² (特別支援学校校舎を含めた建物全体では約 14,500 m ²)
主 な 機 能	診療科	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科 ・小児科 ・児童精神科 ・歯科 	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科 ・小児科 ・児童精神科 ・歯科 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">発達障がい専門の外来（小児科、児童精神科）の新設</div>
	病 室	・近年約 30 名で運用（H19～H23 平均 27.2 名）	<ul style="list-style-type: none"> ・病床数を53床とし、受入人数を拡大 ・発達障がい児親子病室の新設
	訓 練	<ul style="list-style-type: none"> ・運動訓練室 ・作業療法室 ・言語聴覚室 <p style="text-align: right;">ほか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ADL訓練室（日常生活空間を模した訓練室）の新設 ・感覚統合療法室（屋内遊具を用いた訓練室）の新設 ・発達障がい児デイケア室（半日～1日単位で小集団での訓練を実施）の新設
	その他		<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談窓口（肢体不自由児以外の様々な障がいを持つ子どもの療育に関する相談窓口）の新設 ・多目的ホール（園内行事の他、各種連絡会議や研修会にも活用）の新設 ・ボランティア室の新設
概算建設 工事費		・24億円（特別支援学校校舎を含めると約48億円）	

注：平成24年10月末時点の計画であり、今後変更する場合がある

資料 新希望が丘学園及び岐阜希望が丘特別支援学校 イメージ



希望が丘学園
岐阜希望が丘特別支援学校

①病院外来玄関

②1階: 外来(整形外科、小児科、歯科)

③2階: 発達障がい外来(小児科、児童精神科)・検査・訓練・病室

④2階: 病室

⑤1階: 通園・相談・訓練

⑥園庭・屋外訓練場

旧岐阜市立伊奈波中学校敷地

早田西公園

岐阜県立希望が丘学園(病院、医療型障害児入所施設、医療型児童発達支援センター)

- 診療科: 整形外科、小児科、歯科、児童精神科
- 病床数53床、通園50名
- 鉄筋コンクリート2階建て、延床面積約7,300㎡

岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校

- 対象: 小学部、中学部、高等部
- 児童生徒数: 小・中・高合計90名程度
- 鉄筋コンクリート2階建て、延床面積約7,200㎡

2 県総合医療センター新棟・基本設計の概要

(1) 全体計画

- ・重症心身障がい児のための入所病棟に加え、小児医療分野の専門性の高い診療、検査機能を充実させた新棟を整備する。
- ・また、重篤な小児患者に対する救命救急医療を提供するため、病院本館の機能を強化する。
- ・これら新たに整備する機能と、現在の産科・新生児内科・小児科病棟などの機能を合わせ、全体を（仮称）小児医療センターとして位置づけ、本県における子どものための医療の中心的役割を担う体制を構築する。

(2) 整備スケジュール

平成 24 年度	基本・実施設計（～平成 25 年 3 月末まで）
平成 25 年度	建設工事着手
平成 27 年度	供用開始

(3) 新棟の概要

敷地面積	約 9 0 0 m ² ※岐阜県総合医療センター敷地内（駐車場として利用中の南西角に整備）
建 物	7 階 ※うち主に 2 フロア分は障がい児病棟 ※その他各階の構成は次頁のとおり
延床面積	約 4, 8 0 0 m ²
主な機能	<ul style="list-style-type: none">・障がい児病棟の整備（病床 30 床：ハイケア病室 16 床、病室 14 床） ※NICU や PICU 等から移行する高度専門医療を必要とする重症心身障がい児を中心とした入所需要に対応・小児科外来を本館から移転し、診察室の数を拡充（7 室→10 室）・小児の診療を重点的に行うために検査機器（MR I・CT）を設置

参考図

本館

新棟

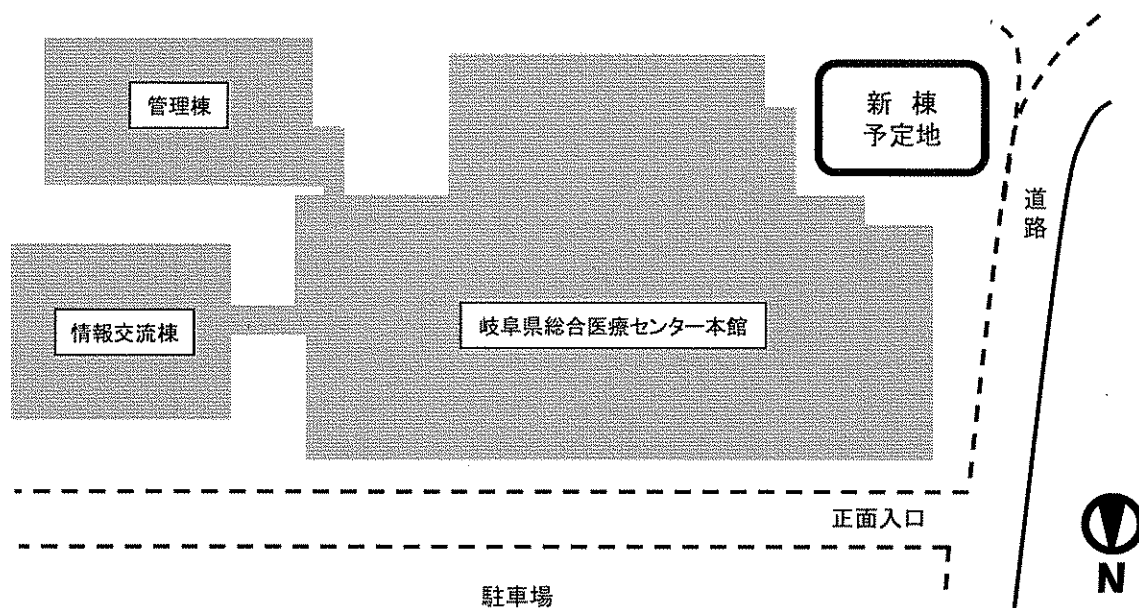
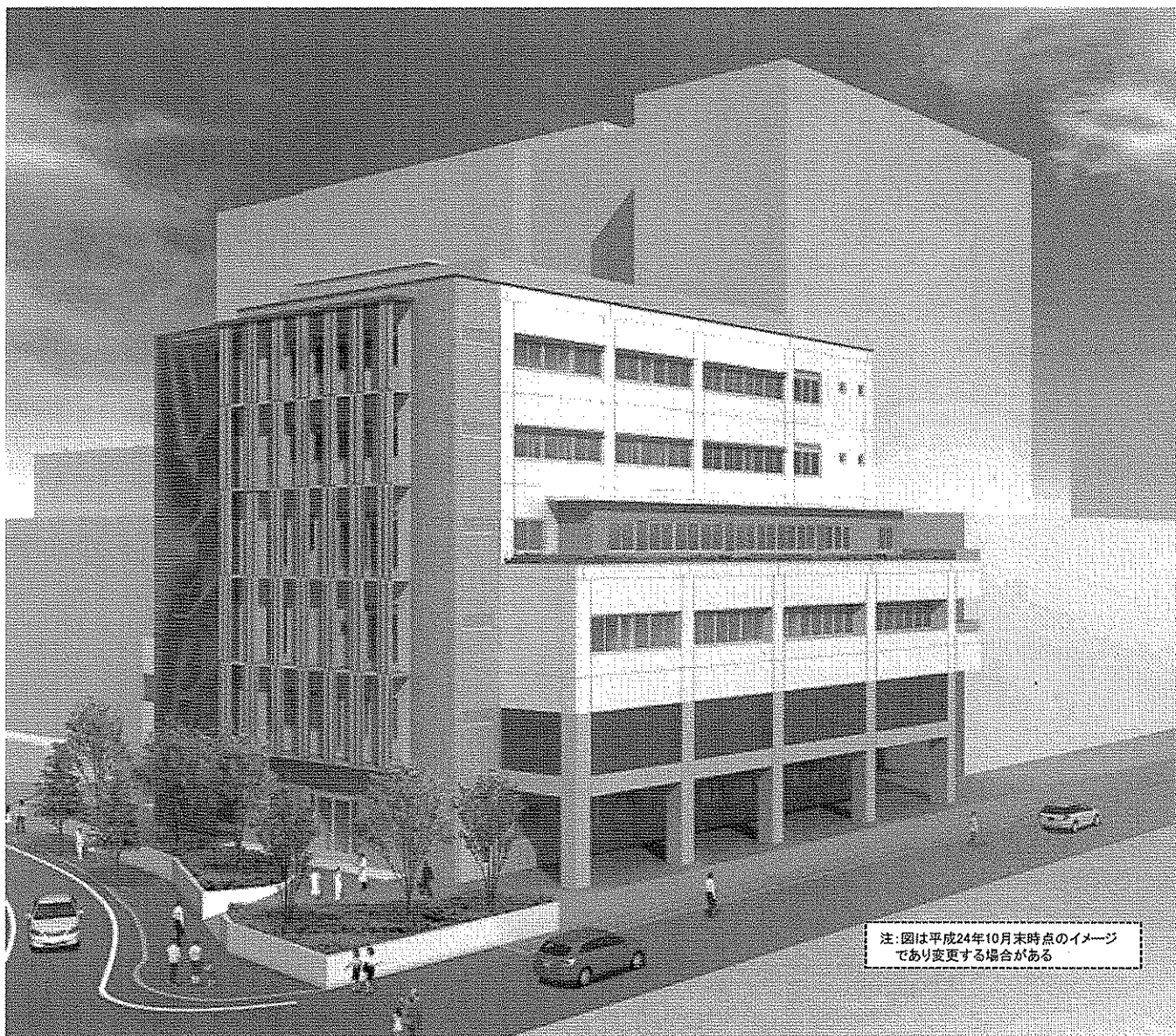
10F: 病棟 腎臓内科、神経内科、循環器内科、総合診療科、 内科、糖尿病内分泌内科、呼吸器内科、放射線科
9F: 病棟 小児科 38床 消化器内科
8F: 病棟 外科 女性医療センター
7F: 病棟 脳神経外科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、泌尿器 科、皮膚科、消化器内科、呼吸器内科
6F: 病棟 整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、循環器 内科、眼科、脳神経外科
5F: 病棟 心臓血管センター
4F: 病棟 新生児内科 (NICU・GCU) 40床 産科 (MFCU) 30床
3F 小児循環器内科、小児心臓外科 20床 ※小児集中治療室 (PICU) の整 備 (小児救命救急センター) 中央手術部 救命救急センター (ICU・HCU)
2F 外来診療科 検査部門 小児科外来 新棟2階へ
1F 外来診療科 検査部門 外来化学療法室 新棟5階へ

新棟全体面積 (機能別内訳)	4,800㎡
・障がい児病棟分	1,594㎡
・その他小児医療センター分	1,577㎡
・病院自主事業分	1,629㎡

7F: 機械室
6F: 管理部門 (医師その他スタッフ用スペース)
5F: 化学療法室 20床 移転増床 ※外来抗がん剤治療の点滴治療室を移転のうえ拡張し、 化学療法外来抗がん剤治療を担う
4F 障がい児病棟 (ハイケア病室16床)
3F 障がい児病棟 (病室14床) 重症心身障がい児 施設 30床 新設
2F 小児科外来診療室 小児科(4)、小児循環器科(2) 小児外科(1)、感染症診療室(2) 新生児内科(1) 小児科外来診療の 拠点 診療室の増室 (合計7→10)
1F MRI・CT等検査室 ※障がい児病棟の検査機能を兼ね、本館検査室 とは別に整備し、小児の患者を中心とした運用 を行う。 小児専用の検査機 能の整備 新設 障がい児診療室の 整備 新設 障がい児診療室 等 病児・病後児保育所 専門ドック

◎網かけ部分が「(仮称)小児医療センター」の機能を持つ主なスペース

資料 岐阜県総合医療センター 新棟イメージ



重症心身障がい児者支援策について

1 平成24年度の県の取組み

【人材の養成の観点から】

新【重症心身障がい児者等支援従事者研修の実施】

重症心身障がい児者等を受け入れている医療機関や福祉施設で支援業務に携わる職員等を対象に、医療的ケアの基本的知識の習得等の研修を実施。

岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨圏域
で各1回開催(計446名参加)

【受入れの体制づくりの観点から】

新【重症心身障がい児者等短期入所受入れに向けた情報提供等】

重症心身障がい児者等の短期入所サービスマシンの実施に関し、情報の集約を図るとともに、各実施機関の基本情報・空床情報・ホームページでの一括提供を実施。

9月1日から岐阜県重症心身障がい
児者等短期入所受入れネットワーク
情報提供システムを稼働。都道府
県による同趣旨の情報提供は全国
初の取組み

新【重症心身障がい児者等短期入所基盤整備事業への補助】

医療的ケアの必要な重症心身障がい児者等の短期入所、日中一時支援を新たに実施し、又は受入れの拡大を図る医療機関・福祉施設に対し、医療機器等の購入及び設備改修の経費に対し助成。

現在1つの医療型事業所において
申請を検討中

【圏域・市町村における障害者自立支援協議会による地域の体制づくり】

当該地域の医療・福祉・保健・教育の支援機関、関係団体等が短期入所の拡大策等を協議し、その地域の体制づくりを進める。

全圏域において各1回開催

重症心身障がい児者の受入れが可能な短期入所事業所数

○ 平成24年度、「2箇所」の医療型短期入所事業所が増加。 ※ H24.7 中濃圏域1箇所、H24.9 岐阜圏域1箇所

- ・ 短期入所の指定を受けている事業所数85のうち、重症心身障がい児者の受入れが可能な事業所が、「38事業所」(36→38)となった。
※ 医療型が12事業所、福祉型が26事業所
- ・ このうち、濃厚な医療的ケアが必要な超重症児者・準超重症児者の受入れが可能な事業所が、「19事業所」(17→19)となった。
※ 医療型が12事業所、福祉型が7事業所

<H24.12 県障害福祉課調査>

	岐阜	西濃	中濃	東濃	飛騨	合計
医療型						
受入可能な事業所数	5	1	4	1	1	12
超重症児者対応可	4	1	1	1	1	8
準超重症児者まで	1	0	3	0	0	4
上記以外	0	0	0	0	0	0
福祉型						
受入可能な事業所数	6	7	7	4	2	26
超重症児者対応可	0	0	0	0	0	0
準超重症児者まで	1	3	2	0	1	7
上記以外	5	4	5	4	1	19
合計	11	8	11	5	3	38
超重症児者対応可	4	1	1	1	1	8
準超重症児者まで	2	3	5	0	1	11
上記以外	5	4	5	4	1	19

10→12へ増加

2→3へ

36→38へ増加

19

17→19へ増加

2 平成25年度の県の新たな取り組み(案)

【人材の確保及び経営上の観点から】

《主な課題》

- 診療報酬に比べて、短期入所サービスに係る介護給付費が低い。
- 重症心身障がい児者の短期入所受入れにかかる対応は、看護師が一人付きっきりで対応することになる。

新【重症心身障がい児者等を短期入所で受け入れた場合の診療報酬との差額を補助】

指定短期入所事業所である医療機関が、医療的ケアの必要な重症心身障がい児者を短期入所で受け入れた場合に、当該障がい児者が、医療保険を適用して入院した際の診療報酬と、障害福祉サービス(短期入所)を提供した際の介護給付費との差額の一定部分を補助。

新【重症心身障がい児者が病院で短期入所を受けられるしくみの構築に向けた試行】

・日頃、障がい児者の看護に携わっている訪問看護師を病院の短期入所時の看護にも活用できるしくみを構築し、そのために必要となる経費を支援。

重症心身障がい児者等短期入所報酬差額補助事業(案)

医療的ケアの必要な重症心身障がい児者等の短期入所の利用促進、及び短期入所サービスを行う事業所の拡大を図るため、医療機関が医療的ケアの必要な重症心身障がい児者等に対する短期入所を実施する際に、医療保険を適用して入院する場合の診療報酬と、障害福祉サービス(短期入所)を提供する場合の介護給付費との差額の一部を補助

①補助対象者

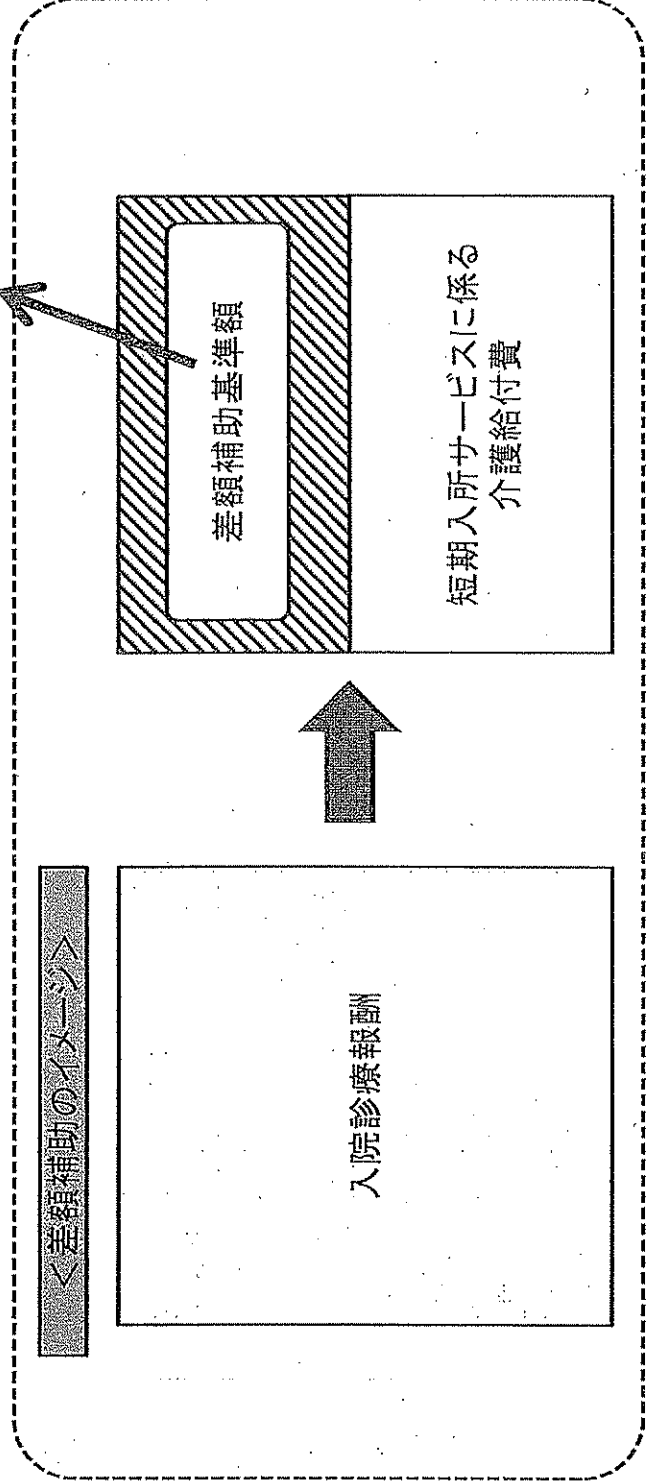
県内に住所を有する医療的ケアが必要な在宅の「超重症児者」及び「準超重症児者」を短期入所で受け入れた医療型短期入所事業所

②補助基準額

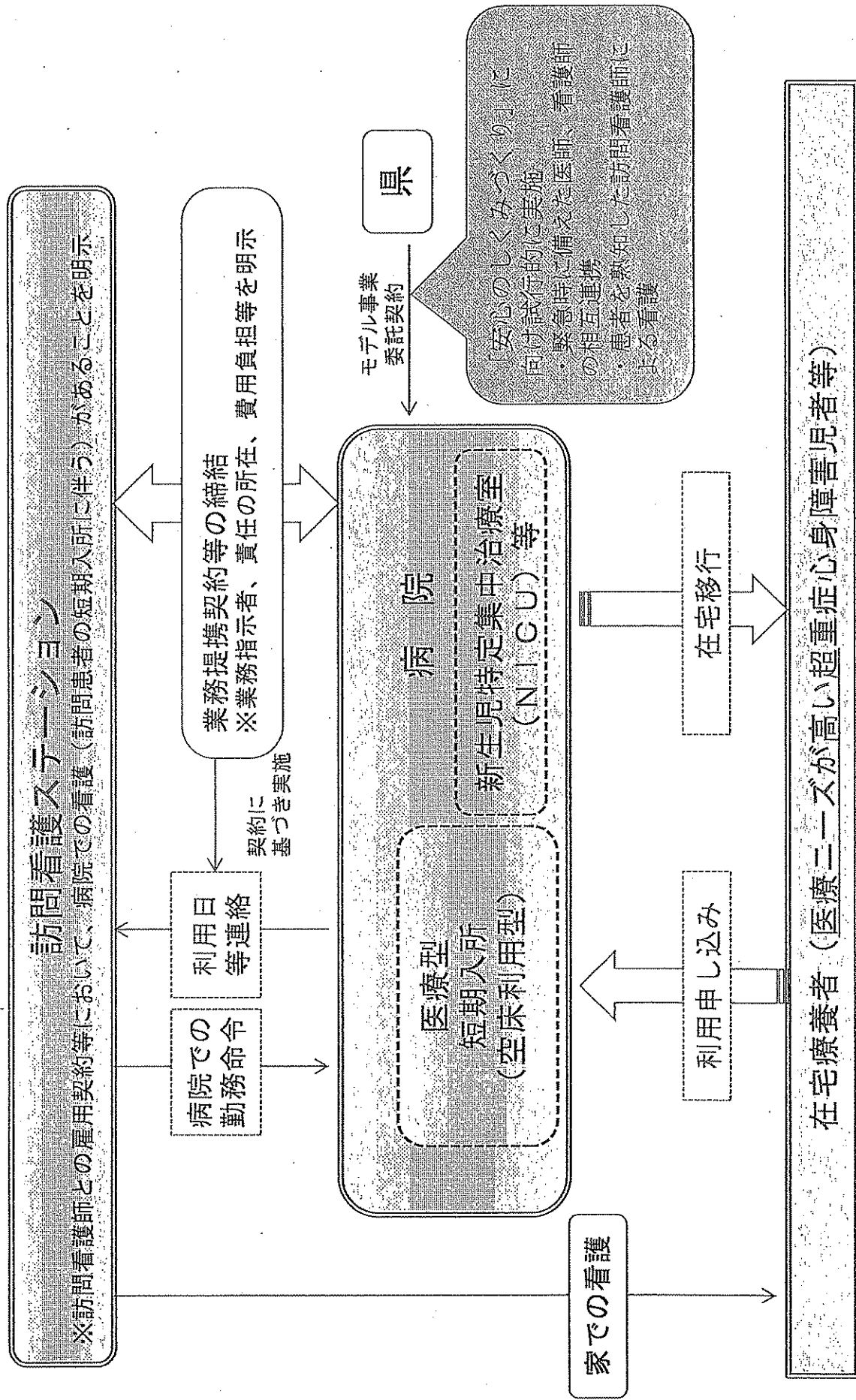
《医療保険を適用して入院する場合の診療報酬》

《障害福祉サービス(短期入所)を提供する場合の介護給付費》

《差額補助基準額》



病院における短期入所の連携イメージ（モデル事業）（案）



【人材の養成の観点から】

《主な課題》

- 直接処遇を行う看護職員、介護職員の絶対数が不足している。
- 看護職員等に、重症心身障がい児者等の処遇経験が無いが著しく少ないため、経験不足からくる事故等
が懸念される。

拡【重症心身障がい児者等支援従事者研修の実施】

・24年度実施の研修に加え、看護師、介護士等養成の場等(セミナー・講義等)で活用できる県内の重症心身障がい児者をテーマにしたDVDを制作。

【受入れの体制づくりの観点から】

《主な課題》

- かかりつけ医でない場合、情報の共有や状態変化への対応の面で、初めて受け入れられる際に困難が多
い。

新【サポートブック「岐阜県 地域でくらす かけはしノート」の改訂・増刷】

・医療的ケアの必要な重症心身障がい児者が短期入所や日中一時支援サービスを利用する際に必要となる本人に関する情報を整理し、活用するためのサポートブックを改訂・増刷。

療育人材の育成確保策の進め方

平成 25 年度の主な取組み（現時点における検討内容）

1 看護学生等を対象とした啓発・情報提供

- ・県が推進する小児医療・障がい児医療の拠点整備計画をPRするためのリーフレットを作成。
- ・県内の看護師養成機関（次頁）を中心に配布を依頼。

2 障がい児者の看護・介護について学ぶ場の提供

（1）障がい児者看護人材確保事業

- ・障がい児者看護の現場（希望が丘学園、長良医療センター）における看護体験の実施。
- ・訪問看護ステーション等、自施設において充実した研修が困難な小規模施設での人材育成のための研修プログラムの作成。

（2）重症心身障がい児者等支援従事者研修

- ・地域の医療機関や施設の看護職員・介護職員等を対象に、1年目は重症心身障がい児者の置かれている現状や心構えなどを中心に実施。年間6回開催予定。
※平成24年度は6回開催（平成24年11月まで5回開催。第6回の内容は別添のとおり。）
- ・2年目は、実際に支援を行う際に必要な医療的ケアのスキルやリスクなどの知識を学ぶ。
※例：医療・経管栄養と危機対応、吸引・呼吸援助と危機対応、安全においしく食べる
- ・また、看護師、介護士等養成の場で活用するためのDVDを作成する。

3 障がい児医療に関するセミナーの開催

- ・他県の医療機関や医療型障害児入所施設のスタッフを講師として招き、県内医療機関の医師や看護職員等を対象としたセミナーを開催。

4 希望が丘学園及び県総合医療センターの療育人材育成確保に係る個別対策

（1）県との共同による、就職説明会での説明・資料配布

- ・参考：平成24年度実績
県総合医療センター設置ブースでの小児医療センター整備計画のPR
H24.3.30（名古屋市内）、4.28（岐阜市内）

（2）希望が丘学園、県総合医療センター及び長良医療センター間での相互研修に向けた調整

- ・それぞれ異なる役割を担っている3病院間での相互協力により、自院では習得困難な知識・技術を学ぶための研修の実施に向けた検討。
- ・平成25年度においては、平成26年度からの実施に向けた調整や条件整備を行う。

県内看護師養成機関(県看護協会HPより) ※自衛隊病院、助産師養成機関を除く

	学校名	所在地	課程
岐阜	岐阜大学大学医学部	岐阜市柳戸1番1	大学、大学院修士課程
	岐阜県立衛生専門学校	岐阜市野一色4丁目11番2号	3年課程、2年課程
	岐阜市医師会准看護学校	岐阜市梅河町2-9	准看護師課程
	岐阜市立看護専門学校	岐阜市鹿島町7丁目1	看護師3年課程
	岐阜市立第二看護専門学校	岐阜市青柳町5-3	看護師2年課程
	岐阜保健短期大学 看護学科	岐阜市東鶉2-92	看護師3年課程
	平成医療短期大学 看護学科	岐阜市黒野180	看護師3年課程
	済美高等学校衛生看護科	岐阜市正法寺町33	高等学校衛生看護科
	各務原市医師会准看護学校	各務原市那加東亜町106	准看護師課程
	岐阜県立看護大学	羽島市江吉良町3047-1	大学、大学院修士課程
	羽島市医師会准看護学校	羽島市江吉良町1997番地1	准看護師課程
	西濃	日本中央看護専門学校	大垣市河間町3丁目77番地
大垣市医師会看護専門学校		大垣市緑園129番地	看護師2年課程
大垣市医師会准看護学校		大垣市新田町1丁目8番地	准看護師課程
中濃	岐阜医療科学大学保健学部看護学科	関市市平賀字長峰795-1	大学
	あじさい看護福祉専門学校看護学科	美濃加茂市川合町4丁目6-8	看護師3年課程
	可児医師会加茂医師会立加茂准看護学校	可児市今渡310-1	准看護師課程
東濃	岐阜県立多治見看護専門学校	多治見市前畑町5丁目11-15	看護師3年課程
	多治見市医師会准看護学校	多治見市音羽町3丁目19	准看護師課程
	土岐医師会准看護学校	土岐市土岐津町高山4番地	准看護師課程
	東濃看護専門学校	土岐市土岐津町土岐口703-24	看護師2年課程
	中京学院大学看護学部看護学科	瑞浪市土岐町2216	大学
飛騨	JA岐阜厚生連看護専門学校	高山市大新町5丁目45番地の1	看護師3年課程
	岐阜県立下呂看護専門学校	下呂市幸田1128-1	看護師3年課程